

---

---

# 第21回 図書館総合展 丸善雄松堂出展レポート

---

---

2020年2月10日

 **MARUZEN-YUSHODO**

平素より大変お世話になっております。

昨年11月にパシフィコ横浜にて開催された「第21回 図書館総合展」におきましては、弊社ブース・フォーラムへ大変多くのお客様にお越しいただき、誠に有難うございました。今回、丸善雄松堂は、図書館総合展会場内でのブース展示や計5つのフォーラム開催のほか、同時併催のアートミュージアム・アンヌアーレ2019会場内においても「ミュージアム施設を多面的に支援する」商材・サービスをご紹介するブース展示を行いました。当資料では、その中でも図書館総合展内に出版しましたブースについて、改めてそのコンセプトや実施した企画についてご紹介させていただきます。

なお、会期中、ブースにてご案内しました商材・サービス、事例などにつきまして、会期終了後、数多くのお問合せやご相談を頂戴しております。弊社では、お客様が抱えていらっしゃる課題の解決や今後の方針の実現に向け、お客様の状況に合わせたご提案をさせていただきますので、引き続き弊社営業担当者までお気軽にお問合せくださいませ。

今後とも丸善雄松堂をご愛顧賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

1. 今年の丸善雄松堂のブースについて
2. アイディアウォール：  
10年後の「知の拠点」のイメージをシェアしよう！
3. ワークショップ：  
10年後の図書館を考えよう！～利用者が必要とする知の拠点」から～

# 1. 今年の丸善雄松堂ブースについて

## ① コンセプト： 『10年後も必要とされる図書館を共にデザインする』 — 利用者のInputからOutputまでを支援する新たな「知の拠点」 —

今回、弊社ブースでは、《10年後の社会から「今」を見つめる》《ユーザー・セントリック(利用者目線)で考える》という2つのポイントから、あえて「知の拠点」と読みかえた「図書館」の一つの可能性を、来場者の皆さんと共に考える場を目指しました。

## ② アイディアウォール： 10年後の「知の拠点」のイメージをシェアしよう！

ブース中央には、来場者の皆さんが考える10年後の「知の拠点」のイメージを具体化し、共有していただく《アイディアウォール》を設置しました。ここでは、来場者自身が2030年に新たにオープンする「知の拠点」の検討プロジェクトリーダーに選ばれたと仮定して、10年後の社会やそこに暮らす人びとに必要とされる「知の拠点」について、イメージを深めていただきました。

## ③ ワークショップ： 10年後の図書館を考えよう！～ 利用者が必要とする「知の拠点」から ～

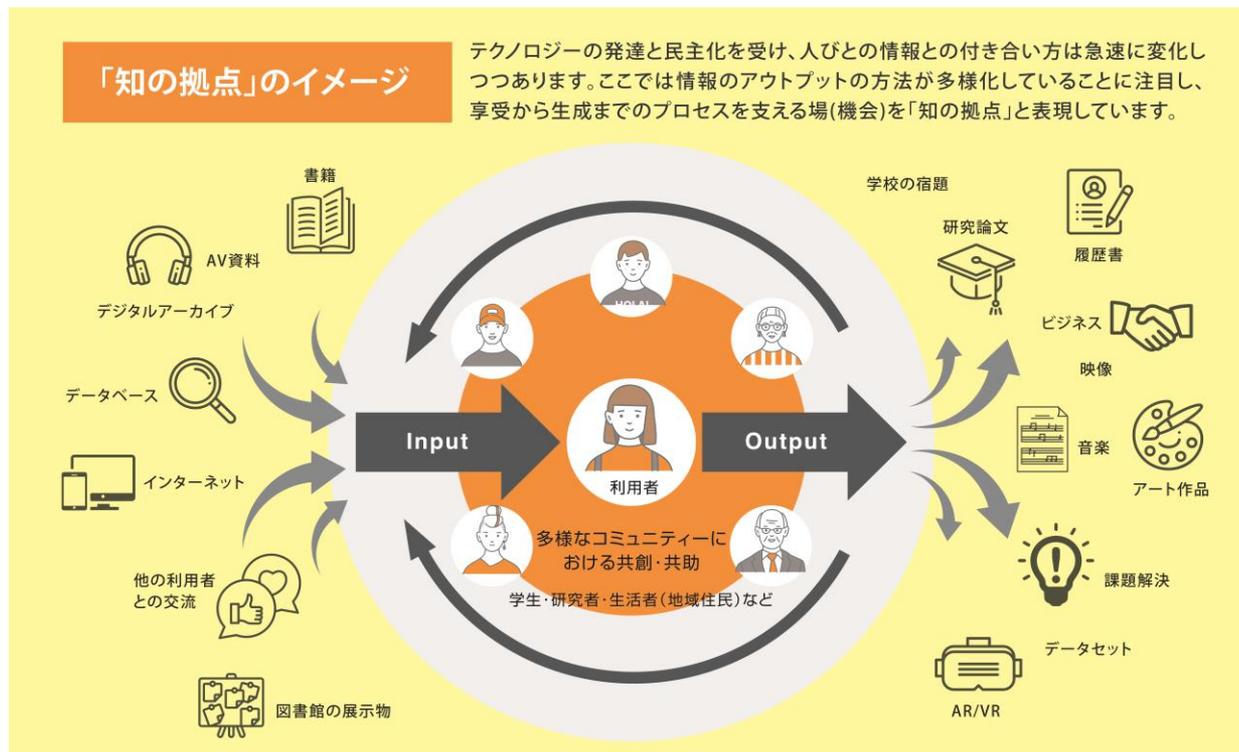
会期中、毎日17:15-17:45の展示会終了間際には、来場者の皆さんの、図書館総合展会場のさまざまな展示やフォーラム等からのインプットを経た、1日の終わりの発散(アウトプット)の機会として、アイディアウォールを使った《ワークショップ》を開催しました。ここでは、各回5名程のグループに分かれ、各々の1日のインプットを材料にディスカッションやワークで「10年後の図書館」のコンセプトを30文字以内にまとめ、その内容を全体に共有する一連の作業を通して、丸善雄松堂の考える「知の拠点」のイメージを体感していただきました。

# 10年後も必要とされる図書館を共にデザインする — 利用者のInputからOutputまでを支援する新たな「知の拠点」 —

人口減少に伴う経済活動の鈍化やオートメーション化による労働市場の変化、「教育→仕事→引退」の単線型人生から生涯学習を前提とした複線型人生へのシフトなど、この10年で社会全体が大きく変容することが予測されています。そのような社会において「図書館」はどのような役割を担っているのでしょうか—

今年、創業150周年を迎えた丸善雄松堂は、長年日本の学術情報流通に携わってきた知見に基づく「知と学び」を切り口にしたコミュニティづくりに取り組む企業として、改めて「図書館」と向き合いたいと考えました。そのきっかけとして、今回の展示では、「10年後の利用者(生活者)」の目線に立ち、あえて「知の拠点」と読みかえた「図書館」の一つの可能性を考えたいと思います。

10年後から「今」を見つめなおすことで初めて得られる気づきもあるかもしれません。私たちと一緒に、図書館の未来をデザインする一歩を踏み出しませんか？



図書館の未来像からバックキャストして「今」を見つめることによって、現在抱えていらっしゃる「課題」や、今後目指されている「方針」を、改めて捉え直すことができるのではと考え、弊社ブース内では、その解決や実現をご支援する商材・サービス、事例などをご紹介します。

**出展商材・サービス、事例の詳細については、弊社の営業担当者までお気軽にお問い合わせください。**



## 出展商材・サービス一覧

- ① 国内最大級の機関向け電子図書館  
Maruzen eBook Library
- ② 電子教科書でアクティブラーニングをサポート  
Maruzen eText Service
- ③ 電子版オリジナル教材の制作をサポート  
教材制作支援サービス
- ④ 学術コンテンツに特化した個人向けeBook  
Knowledge Worker 個人向けeBook
- ⑤ 情報資産の利活用をトータルサポート  
アーカイブ総合支援
- ⑥ グローバル人材を育てる洋書カタログ  
洋書に触れる
- ⑦ 「アルフォンス・ミュシャと麗しの書物たち」  
ミュシャによる豪華挿絵本とポスター展示

- ⑧ 事例と最新動向に触れるSD・FD研修  
海外図書館フィールドワーク型研修
- ⑨ 「創造的な学び」を促す学習支援  
ファブスペース支援事業
- ⑩ 選書×空間設計×運営で、場をトータル演出  
本のある場づくり BooQ®
- ⑪ 学びの講座の情報発信・運営を支援  
Second Academy / Smart Academy
- ⑫ 学びなおしの情報を発信するポータルサイト  
マナパス ～社会人の大学等での学びを応援するサイト～

## 「知の拠点」の事例紹介

- ① 地域住民のニーズに応えるコミュニティー構築  
地域の活性化を支援する「知の拠点」づくり
- ② 学産官民連携による地域プラットフォームを構築  
知のワーキング



ブース正面





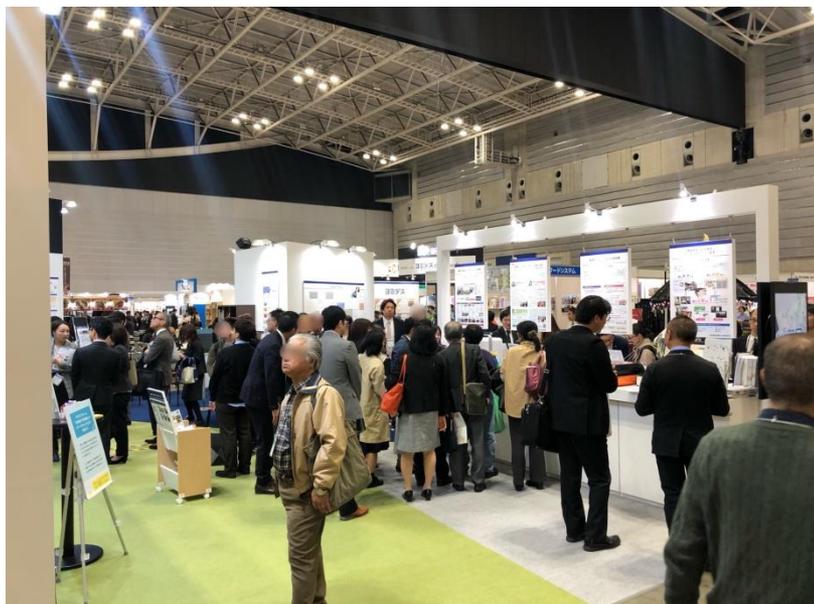
知の拠点の事例紹介



プレゼンテーション



アルフォンス・ミュシャの作品展示



## 2. アイディアウォール

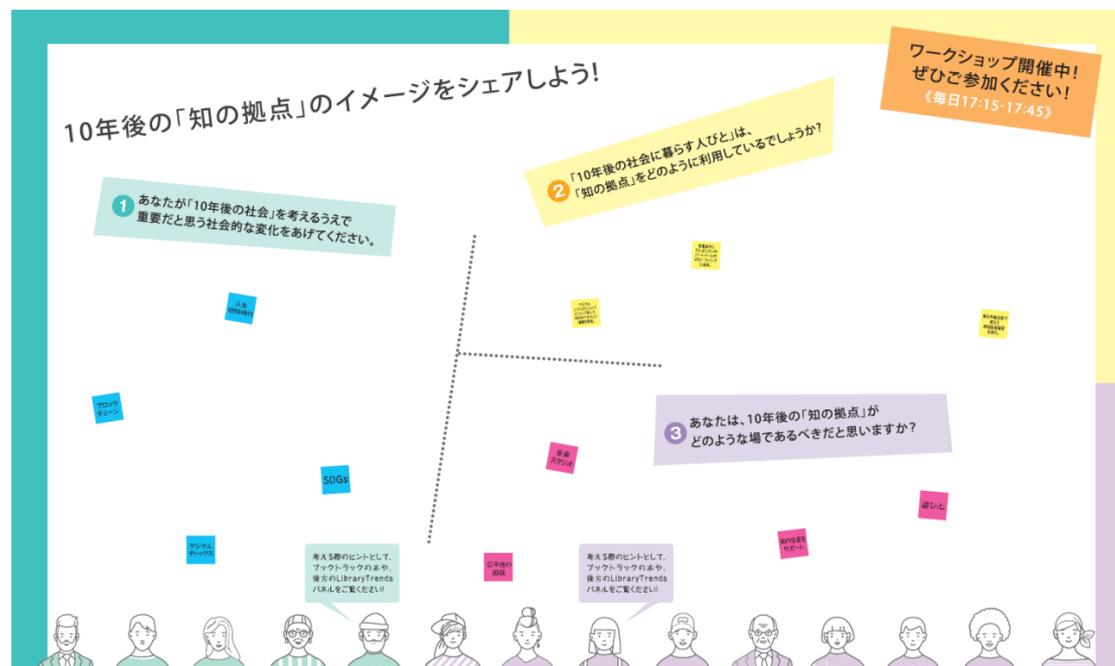
## 10年後の「知の拠点」のイメージをシェアしよう！

アイデアウォールは、来場者の皆さんに自由な発想で「10年後の図書館」をイメージしていただけるよう、あえて明確な定義を避けた「知の拠点」について考え、その場で思いついたアイデアを可視化し、他の来場者の皆さんと共有することを目的に考案しました。

来場者の皆さんには、弊社であらかじめご用意した質問に対する回答を付箋に書き、アイデアウォールに貼りだしていただきました。また、考える際のきっかけやヒントとして、弊社が図書館総合展運営委員会と共催する『海外図書館研修』で得た情報などをもとに制作した『Library Trends』パネルのほか、弊社の『本のある場づくり BooQ<sup>®</sup>』サービスを利用し、今回のコンセプトに関連した選書棚を用意しました。結果として、3日間で150以上の付箋が貼られ、業界紙にも取り上げられるなどご好評をいただきました。(※Library Trendsパネルと選書棚についてはP.12-14をご覧ください。)

### アイデアウォール3つの設問

- ① あなたが「10年後の知の拠点」を考えるうえで、重要だと思う社会的な変化を上げてください。
- ② 「10年後の社会に暮らす人びと」は「知の拠点」をどのように利用しているのでしょうか？
- ③ あなたは、「10年後の知の拠点」がどのような場であるべきと考えますか？



〔会場に設置したアイデアウォール〕

## アイデンティティ・マネジメント

個人にIDが振られ、生活するうえで様々な個人情報デジタルの足跡になる。図書館は利用者側の個人情報保護に対する理解促進を支援する。

### San José Public Library 【サンJose公共図書館】

バーチャル・プライバシー・ラボで、個人情報に関するトピックや個々のニーズに合ったオンラインのツールキットを作成でき、オンライン上での自らの開示情報をカスタマイズできる。

### Manchester Metropolitan University Library 【マンチェスターメトロポリタン大学図書館】

学生や教員がSNSを就職活動やネットワーキングに効果的に活用するためのリソースや、オンライン上での効果的・魅力的なプレゼンスをつくるためのヒントを提供している。

## 研究成果

大学図書館に集約されていた研究成果がネットワーク上(インターネット上)に分散されるようになってきている。

### Directory of Open Access Journals 【オープンアクセス学術誌要覧】

オープンアクセスジャーナルの包括的なデータベースを構築し、それらの存在を広く知らしめることによって、オープンアクセスジャーナルの利用増大や、影響力の強化を図るオンラインディレクトリ。

### Allmetrics【オールメトリクス】

研究成果の影響度を、SNS上での言及数や文献管理ソフトへの登録数など、従来の論文の被引用数に基づく指標とは異なる手法で測る試み。

## 知の生産者としての利用者

利用者は知の消費者から知の生産者・編集者に。図書館は利用者の知的生産に能動的な役割を果たすようになる。

### San José Public Library 【サンJose公共図書館】

Maker Space Shipというプロジェクトを実施。図書館内にMaker Spaceを設置するのではなく、バスの中につくり利用者のいるところに移動させる。



Photo by San José Public Library/CC BY-SA 2.0

## リサーチデータ・マネジメント

データプランニング、保存、共有など情報環境が複雑になりつつあるなかで、図書館は研究のライフサイクルのあらゆる部分で研究者にサポートを提供する。

### University of Michigan Library 【ミシガン大学図書館】

Deep Blue Dataは、計画、作成、組織化、共有、保存といった研究のすべての段階で研究者をサポートする。また、研究データの共有とアーカイビングをサポートすることで、助成金の条件でもあるデータ共有義務順守の支援遵守にもなっている。

### Monash University Library 【モナシ大学図書館】

研究のパートナーとして、図書館のウェブサイトでは合理的なデータキュレーションの手法やリサーチインパクトを測る方法、研究のライフサイクルの様々な側面でのアドバイスを提供している。

## スペースの再考

図書館は個人の読書とグループの学びのどちらにも対応する必要があり、それによってスペースも再考されるべきである

### DOKK1【オーフス公共図書館】 Oodi【ヘルシンキ市立図書館】



空間を作る過程で市民やステークホルダーを巻き込んで議論し、検討したことで、あらゆる年齢層、社会階層に対して開かれた図書館になっている。

Dokk1, Photos by charlotte henard/CC BY-SA 2.0

## 共同学習体験

図書館は静かな空間というだけでなく共同学習空間や体験を行う空間であるという認識が世界的に広がっている。

### Chattanooga Public Library 【チャタヌーガ公共図書館】

PCの講座をカラーニングクラスと呼び、共通のプラットフォームにログインし、各自が自分のペースで学習を進める。また、参加者同士が相互に教え合うというソーシャルな学習環境を提供している。

## アメリカ図書館協会(ALA)が目にする 図書館に影響するテクノロジー12

ALAのThe Center for the Future of Librariesは、図書館界の発展の傾向に関連するトレンドを、社会、テクノロジー、教育、環境、政治、経済人口統計のジャンルで紹介している。ここではテクノロジーのトレンドのうち、12を抜粋し、図書館にかかわるトピックを提示した。

### Artificial Intelligence

【人工知能】

- 失業者に対するリカレント学習の必要性
- AIが生成する情報の増加による情報環境の複雑化
- データセットが必然的に内包する偏見への配慮

### Data Everywhere

【ユビキタス社会】

- 著作権や知的財産権のリテラシー向上の必要性
- データの収集・活用拠点としての図書館
- 図書館はデータセットのリポジトリに

### Internet of Things

【モノのインターネット】

- IoT対応機器の増加がもたらすAPI中心のアプローチ
- プライバシーへの配慮
- IoTが生むビッグデータの活用

### Facial Recognition

【顔認証】

- プライバシーや多様性への配慮
- IDカードや利用者カードにかかわる入館システム
- 画像コレクションやアーカイブのタグ付けに利用

### Self-Driving Cars

【自動走行車】

- 資料配送やアウトリーチ活動での利用
- 運転からの解放による時間の使い方の変化
- 自動運転技術による失業者への職業訓練

### Unplugged

【デジタルデトックス】

- デジタルエスケープエリアを設けることによる、図書館内の環境のリブランディング
- テクノロジーの使用を制限し思索にふける時間の提供

### Blockchain

【ブロックチェーン】

- 知的財産へのアクセス方法の変化
- 著作権の所在や資格情報の管理システムへの応用
- 様々な管理システムへの活用による失業者のケア

### Drones

【ドローン】

- 遠隔地や災害時のアウトリーチへの活用
- ドローンによって作成されたコンテンツの収集
- 図書館でのドローンの貸出し

### Haptic Technology

【ハプティクス】

- 利用者のアクセシビリティの向上
- ウェアラブル機器への応用による利用者行動の変容
- 新たな教育ツールの開発の可能性

### Robots

【ロボット】

- 経済、就労、キャリア形成の観点から見た重要性
- ロボット前提社会での教育・職業訓練の変化
- ロボットとの付き合い方のリテラシーを学ぶ場

### Virtual Reality

【仮想現実】

- 図書館はVR技術への公平なアクセスの場
- 教育、医療、建築など多分野での応用
- VRの普及による利用者の行動と期待値の変化

### Voice Control

【デジタルアシスタント技術】

- 情報検索行動の変化
- 新たな「読書」など、情報へのアクセス方法の変容
- 教育・学習ツールとしての音声制御デバイスの登場

あいだ

## 情報と空間、コミュニティの間

10年後を、イメージしてみよう。つくる・つたえる・つながる。  
「知の拠点」にはどんなワクワクがあるだろう。





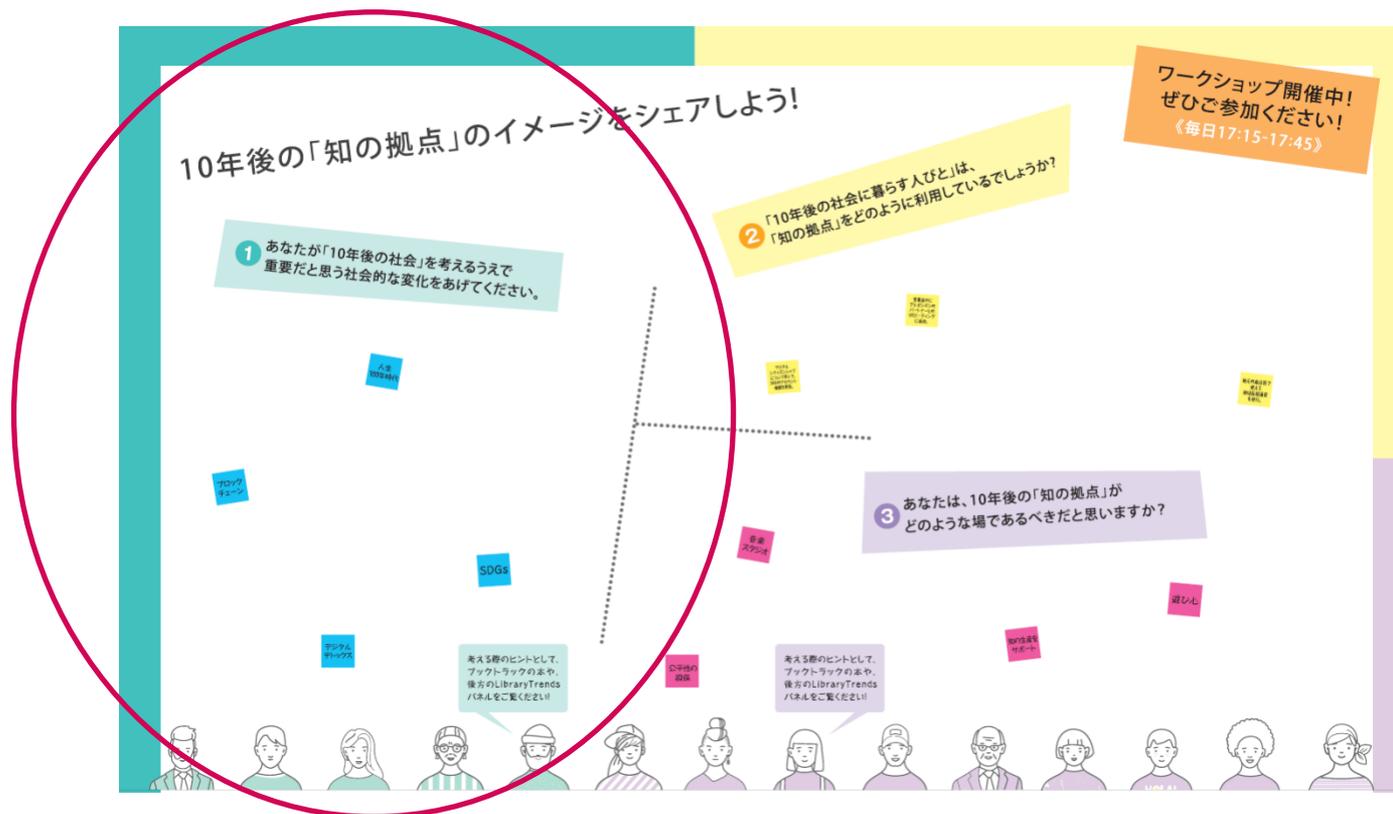
1

あなたが「10年後の知の拠点」を考えるうえで、重要だと思う社会的な変化を上げてください。

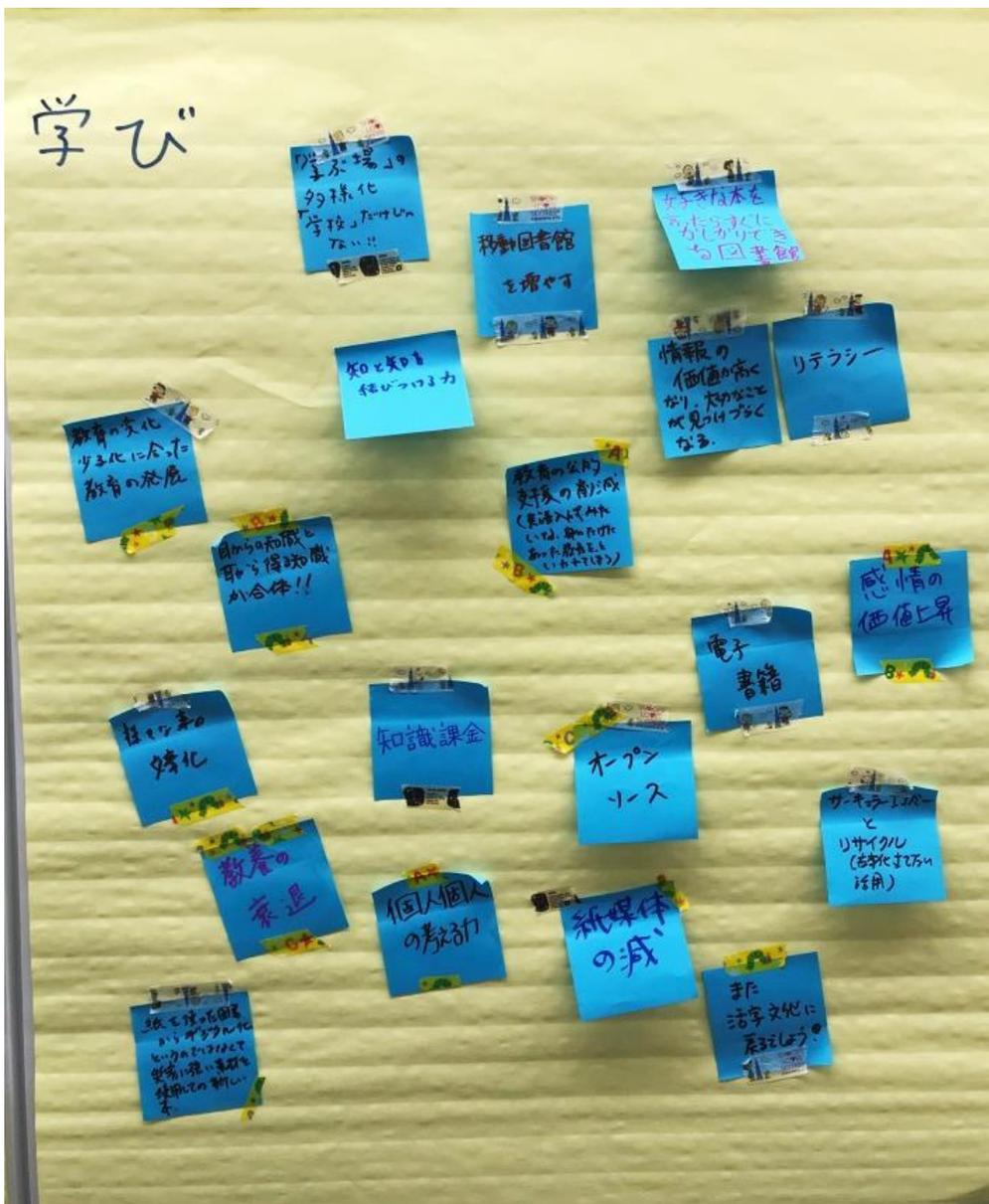


回答から抽出されたキーワード

「テクノロジー」「働き方」「学び」「社会(マクロ)」「  
「少子高齢化」「社会(ミクロ)」



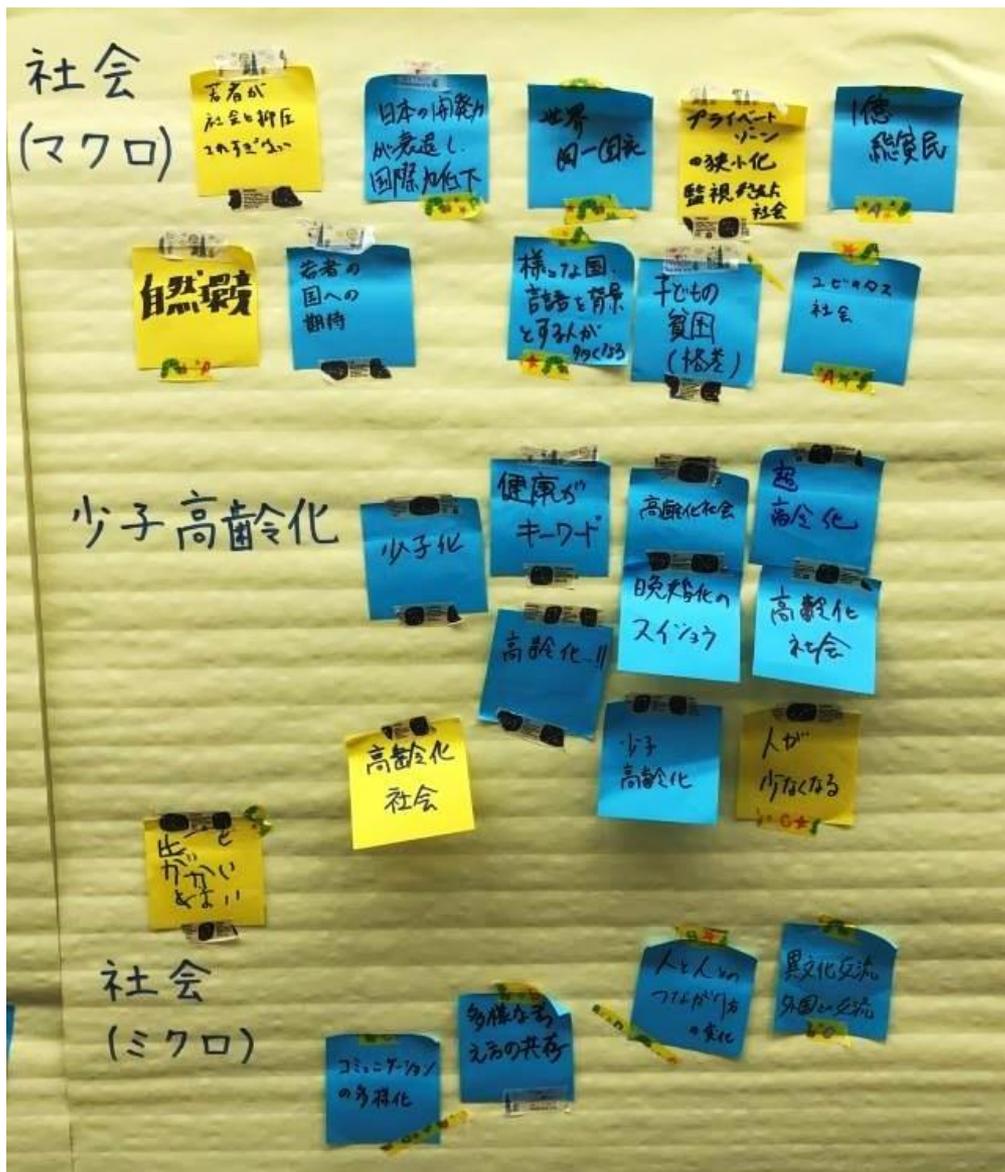




## 学び

『学ぶ場』の多様化。『学校』だけじゃない!! 「目からの知識と耳から得る情報が合体!!」 「オープンソース」など、情報の取得の変化に言及する意見のほか、「個人個人の考える力」「知と知を結び付ける力」「感情の価値上昇」など身につけるべきスキルや力の変化に関するコメントが寄せられた。

一方で、「教育の公的支援の削減」「教養の衰退」「知識課金」などの悲観的な予測も散見された。



## 社会(マクロ)

「様々な国・言語を背景とする人が多くなる」「子供の貧困(格差)」「自然環境」など、地球規模の問題に関するコメントが寄せられた。

## 少子高齢化

「超高齢化」「健康がキーワード」「晩婚化のスイッチ」など、日本の社会において特に顕著なトレンドに関するコメントが多数。

## 社会(ミクロ)

「コミュニケーションの多様化」「人と人とのつながり方の変化」「多様な考え方の共存」など、身の回りの環境の変化に関する言及もあった。

2

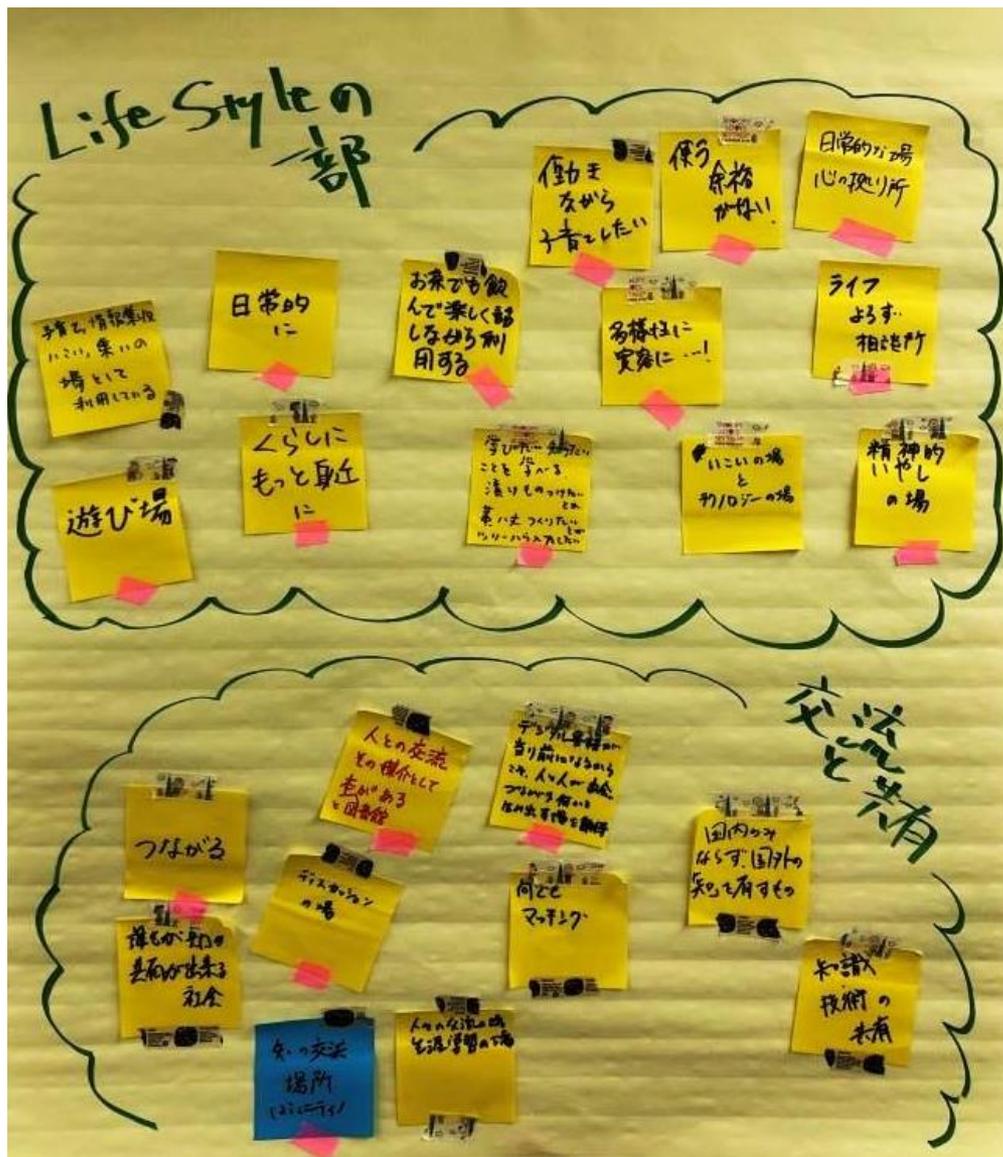
「10年後の社会に暮らす人びと」は「知の拠点」をどのように利用しているのでしょうか？



回答から抽出されたキーワード

「情報へのアクセス」「Lifestyleの一部」「交流と共有」





## Lifestyleの一部

「日常的に」「くらしにもっと身近に」といった生活とシームレスにつながっている場所を想起させるキーワードのほか、「お茶でも飲んで楽しく話ながら利用する」「いこいの場」「精神的いやしの場」などリラクゼーションを求めるコメントも散見される。そのほか、「ライフよろず相談所」など実践的なノウハウを習得する場として捉えている意見もあった。

## 交流と共有

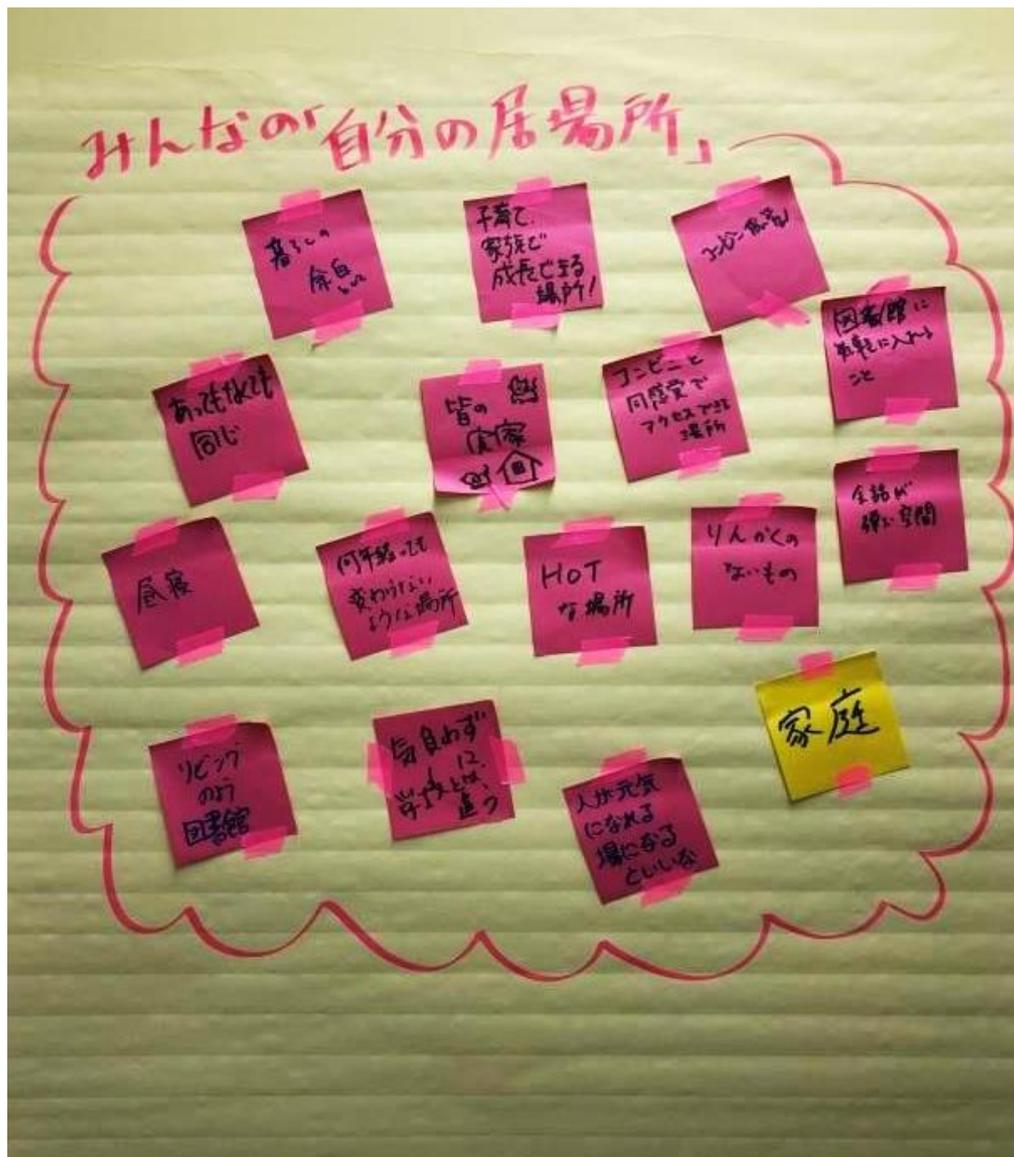
「なんでもマッチング」「知識・技術の共有」「人と人が出合いつながる」「ディスカッションの場」など、人とつながったり、情報を共有する場所を想起させるキーワードが見られる。





## 知の探求／探究と体験

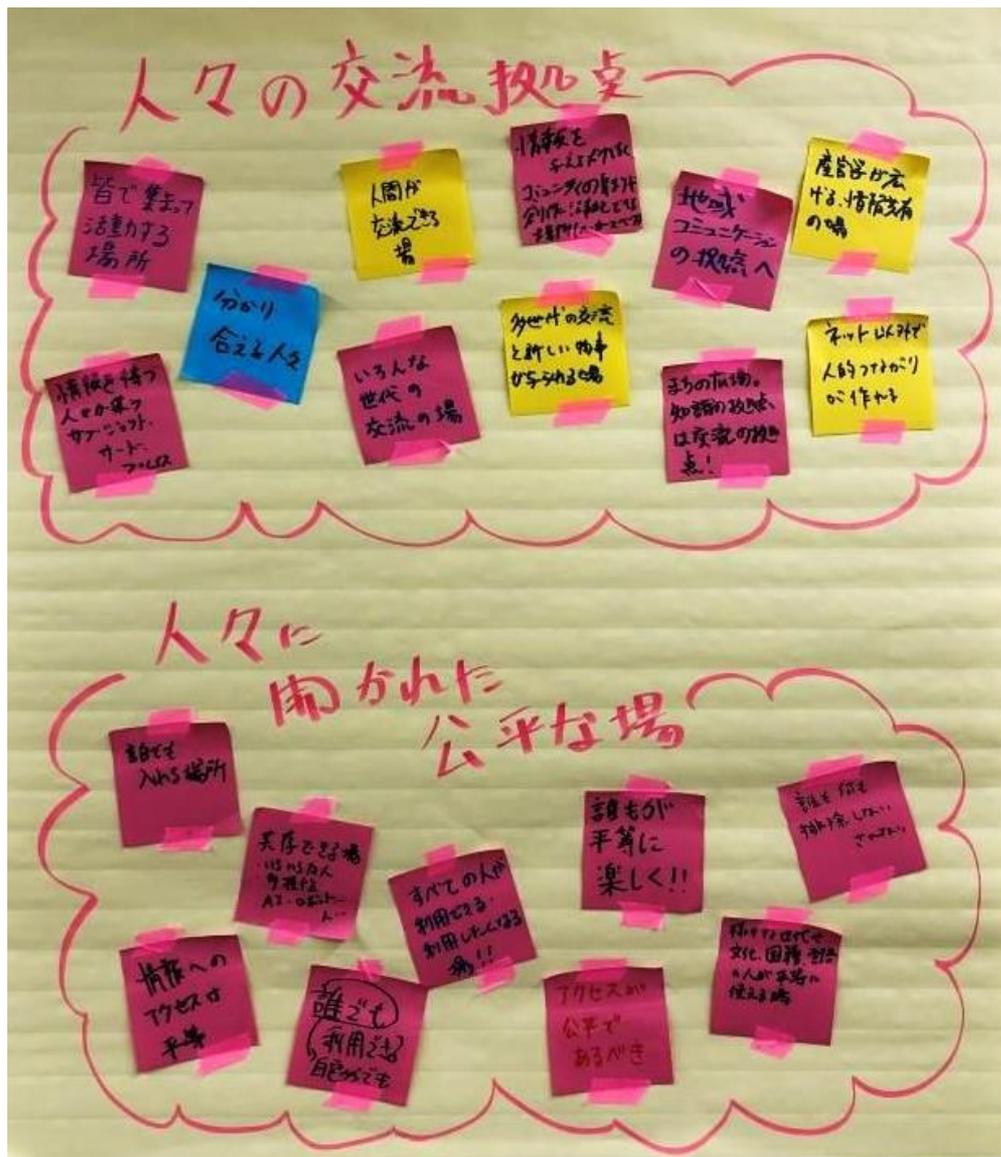
「“発見”こんなこともあるんだ」「新たな発見に出会える場」「なにかを得る場」など気づきを与えてくれる場でありながら、「多くの人が集まりそれぞれ自分の夢を実現させるところ」「運動できる」「発表・表現の場」など情報の発信の場でもある。また、「オープンなARコンテンツ」「データに埋没したい」「本だけでなく広く情報を取り扱える」など情報環境の変化を見越した意見も散見された。



## みんなの「自分の居場所」

「皆の実家」「リビングのような場所」

「昼寝」「家庭」「子育て、家族で成長できる場」など、公共空間でありながら自分の居場所として捉える意見が散見されるほか、「コンビニ感覚」「図書館に気軽に入れること」などアクセスのしやすさに言及するコメントも寄せられた。



## 人々の交流拠点

「いろんな世代の交流の場」「まちの広場。知識の拠点は交流の拠点」「地域コミュニケーションの拠点」「分かり合える人々」など、人のつながりを醸成する場として捉える意見が多数見られる。

## 人々に開かれた公平な場

「すべての人が利用できる、利用したくなる場!!」「情報へのアクセスは平等」「共存できる場(いろいろな人、多様性、AI・ロボット…)」など、場の多様性、包摂性、公平性に言及するコメントが多く見られる。

# 3. ワークシヨップ<sup>o</sup>

## 「情報のInputとOutputの循環」を加速させる仕掛け

以前から、図書館総合展の来場者の皆さんより、「図書館総合展において、情報の享受だけでなく発散できる場がほしい」あるいは「他の来場者と意見交換できる場がほしい」などのリクエストをいただいていた。そこで、今回は、一日の終わりに参加者の皆さん一人ひとりが展示やフォーラムで得た気づきや学び(=Input)を発散(=Output)できるようワークショップを企画しました。

ワークショップでは、参加者の皆さんがブース内に設置したアイデアウォールに寄せられたコメントに目を通した(=他者のOutputをInputした)うえで、グループごとに「10年後の図書館」について改めて考え、最後にディスカッションの結果を発表し、シェア(=Output)していただきました。

シェアされた結果は、ブース内に掲出することで翌日の参加者のInputとなり、また、全体として来場者による知の生成と蓄積が可視化されました。同時に、今回のコンセプトで仮説として掲げた「**知の拠点**」で発生する「**情報のInputとOutputの循環**」を、来場者の皆さんに体感していただく機会となりました。

# WORKSHOP

《毎日17:15-17:45》に、アイデアウォール「10年後の『知の拠点』のイメージをシェアしよう!」を使ったワークショップを開催します。図書館総合展会場のさまざまな展示やフォーラム等からのインプットを経た、1日の終わりの発散、つまりアウトプットの機会として、ぜひご参加ください!

《ワークショップテーマ》

## 10年後の図書館を考えよう! ～利用者が必要とする「知の拠点」から～

ワークのお題



「10年後の図書館」のコンセプトを30文字以内で考えましょう。

※考えるにあたって、アイデアウォールを参考にしてください。



タイムテーブル

- イントロダクション Input 10min
- グループワーク Output 15min  
→ 自己紹介(所属・名前)  
→ 「10年後の図書館」のコンセプトを30文字以内で考えましょう。
- シェア Share 5min (1min/チーム)

みなさんのご参加を  
お待ちしております!

日時 毎日17:15-17:45

場所 丸善雄松堂ブース「61」  
アイデアウォール前

定員 各回12名

※開始5分前にお越しください

丸善雄松堂ブース展示アンケートご協力をお願い

本日は丸善雄松堂ブースにお越しいただき、誠に有難うございます。今後のブース展示の参考とさせて頂くため、簡単なアンケートへのご協力をお願いいたします。  
右記のQRコードまたは<https://bit.ly/33zaLyW>より、アンケートページへお進みください。

アンケート回答ページ



〔会場で展示したワークショップ説明パネル〕



## WORKSHOP

ワークのお題:

「10年後の図書館」のコンセプトを30文字以内で考えましょう。

※考えるにあたって、アイデアウォールを参考に使用

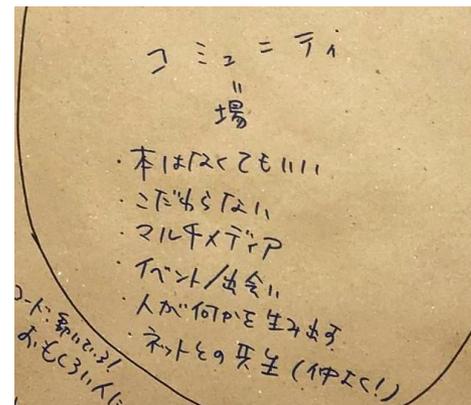
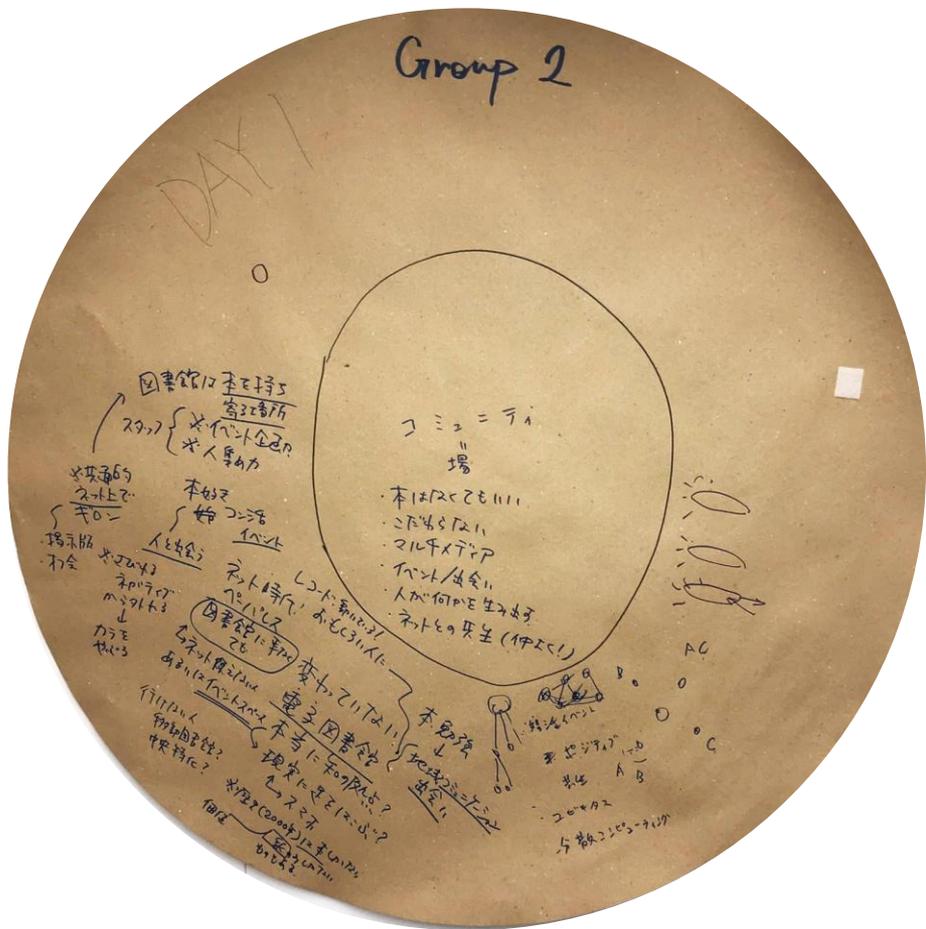


### タイムテーブル

- イン트로ダクション Input 10min
- グループワーク Output 15min
  - 自己紹介（所属・名前）
  - 「10年後の図書館」のコンセプトを30文字以内で考えましょう。
- シェア Share 5min（1min／チーム）



DAY 1  
Group 2 コンセプト

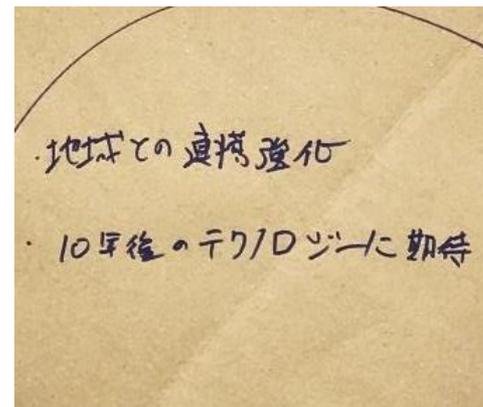
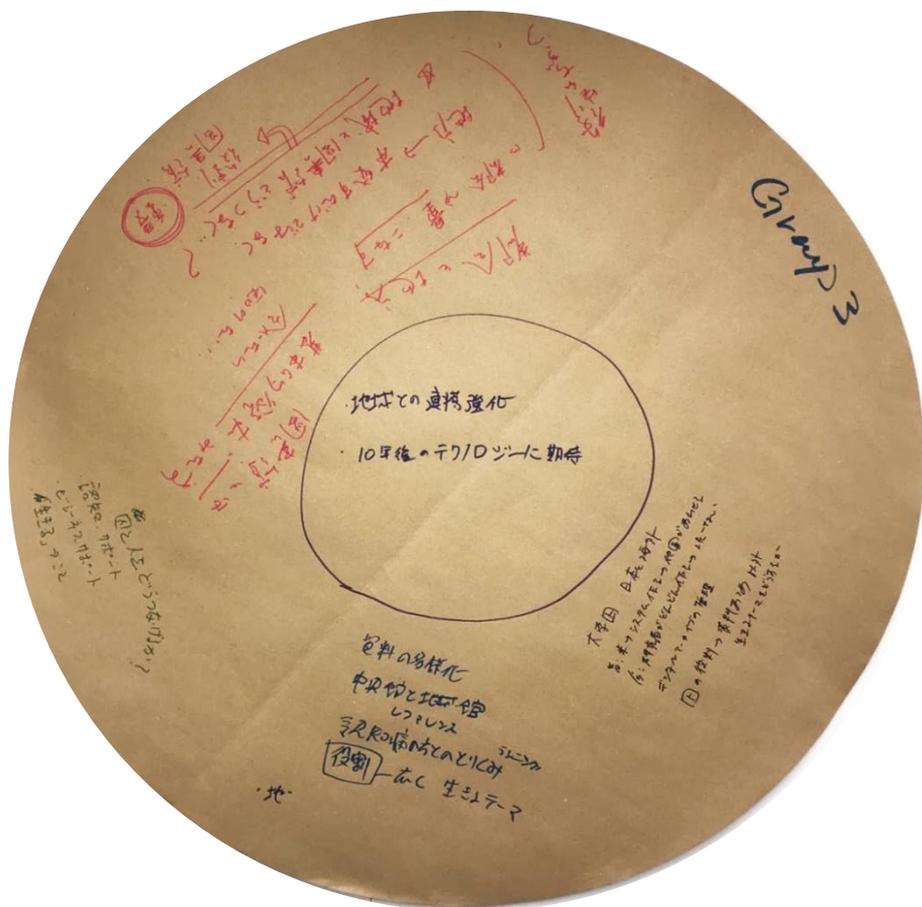


## 「コミュニティ=場

本はなくてもいい、こだわらない、  
マルチメディア、イベント/出会い、  
人が何かを生み出す、ネットとの共生  
(仲良く!)

このグループでは、図書館とはそもそもどうい  
う場所なのかについて喧々諤々と議論が交わさ  
れた結果、さまざまなポイントが列挙された箇  
条書きでアウトプットされました。

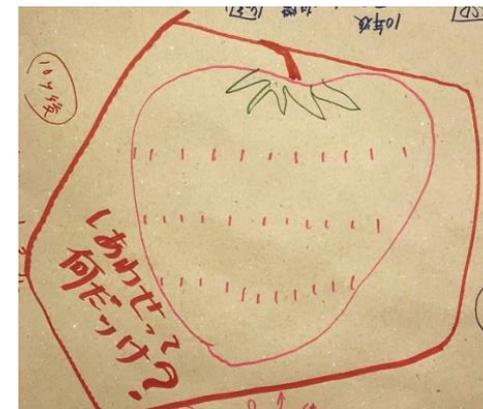
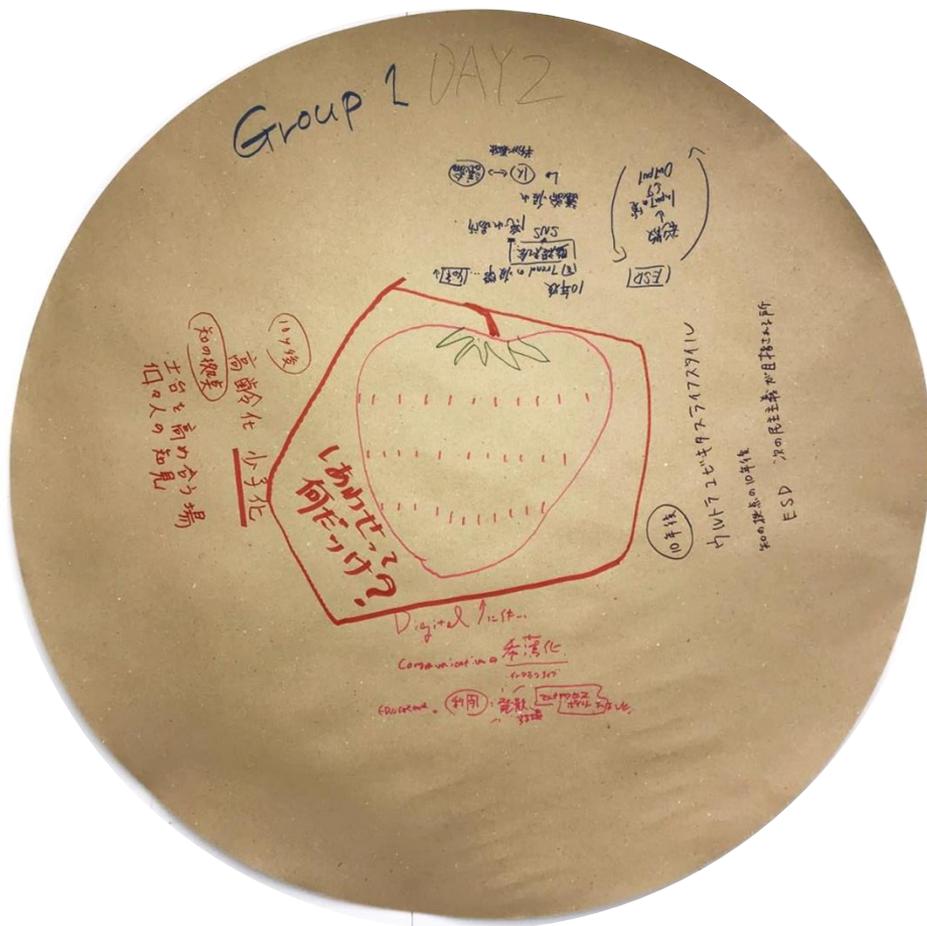
DAY 1  
Group 3 コンセプト



## 「地域との連携強化 10年後のテクノロジーに期待」

図書館のサービスを幅広くして行くためにはどうすれば良いかという視点で行われた議論のなかで、地域との連携強化の文脈で中央館と分館の役割分担や、人と人あるいは地域と海外をつなげる役割を担う上でのテクノロジーの重要性に関する言及がありました。

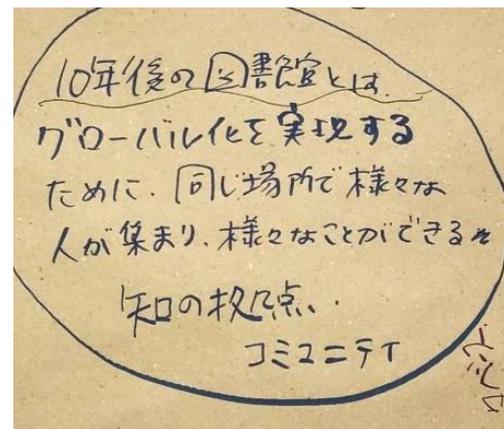
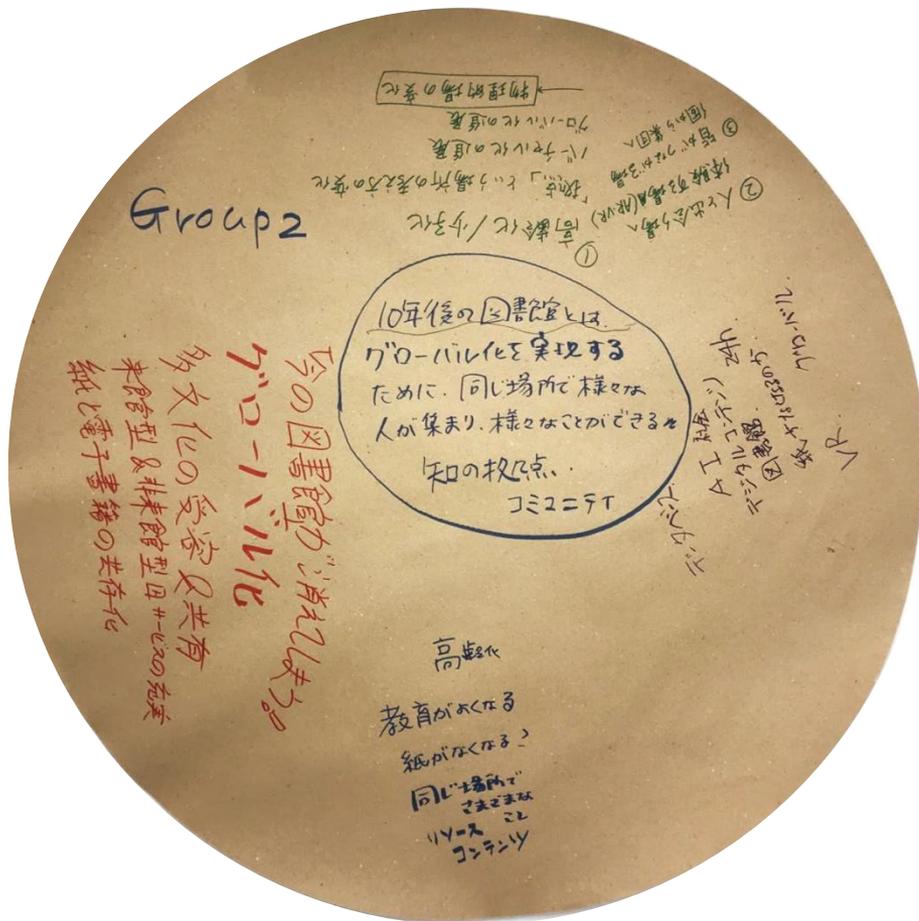
## DAY 2 Group 1 コンセプト



## 「しあわせって、何だっけ？」

このグループでは、「15分という短い時間で答えをまとめようとするのではなく、この場の発散を経て、今後各々が考えていくきっかけにしよう」という考えのもと、その意思表示としてイチゴのイラストが描かれるとともに、他の来場者に対し「しあわせって何だっけ？」という新たな問いが投げかけられました。

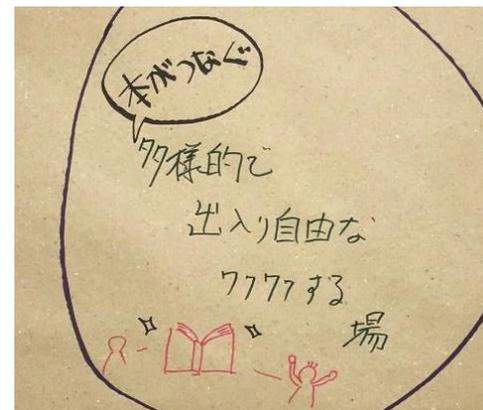
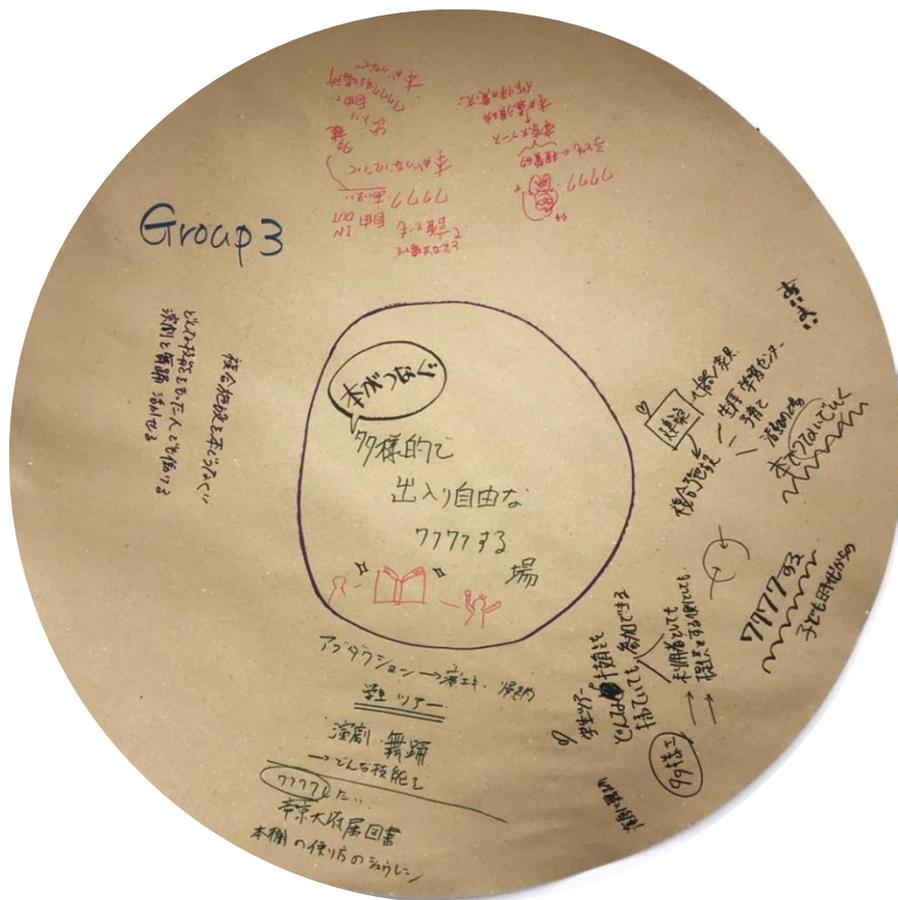
DAY 2  
Group 2 コンセプト



「グローバル化を実現するために、同じ場所で様々な人が集まり、様々なことができる知の拠点・コミュニティ」

このグループでは、グローバル化をキーワードに他の文化に対する寛容さや高齢化を背景とした「人が集まる場」の重要性について議論が交わされました。

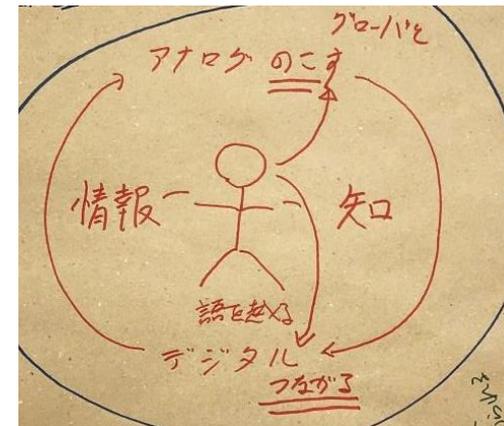
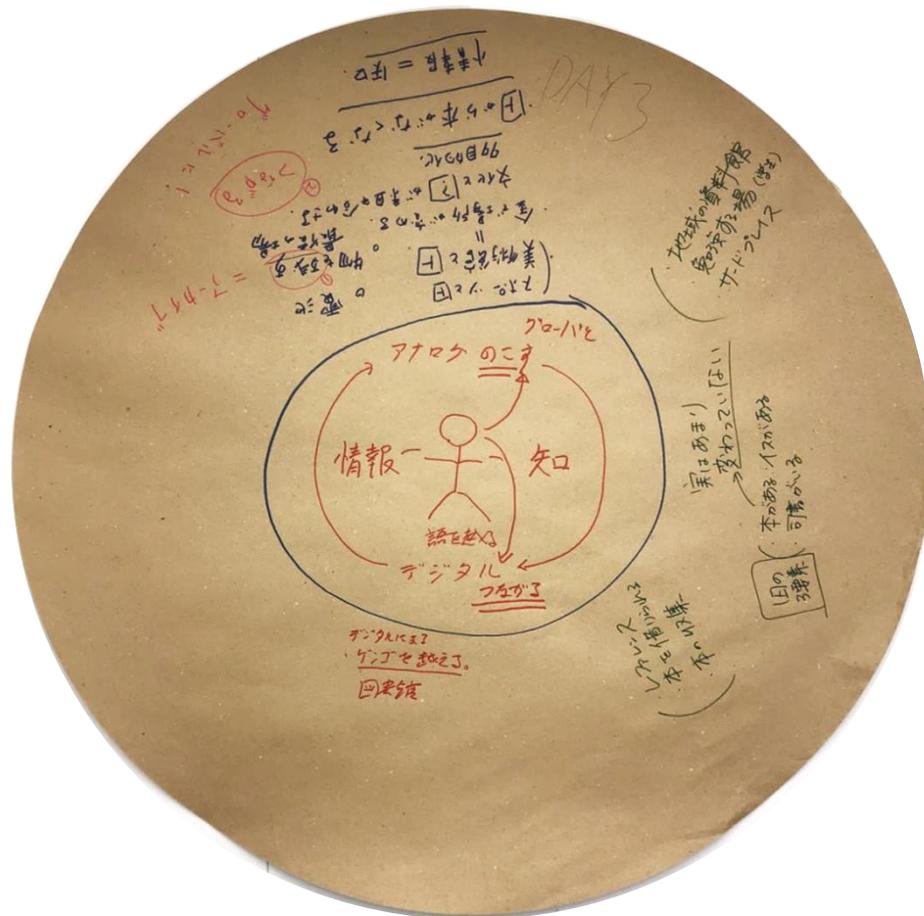
DAY 2  
Group 3 コンセプト



## 「本がつなく、多様的で出入り自由なワクワクする場」

このグループでは、図書館を社会で必要な機能（例えば生涯学習センターや子育て支援、あるいは活動の場）を本でつなげる施設と規定したうえで、利用者の属性に関係なくアクセス可能で、「ワクワク」を与えてくれる場であるとなりました。

## DAY 3 Group 1 コンセプト



※事務局の解釈が入っています

## 「語を超える—アナログとデジタルが 紡ぐ新しい情報と知」

このグループでは、図書館にアナログで残しておくべき情報とデジタル化による付加価値をうまく線引きしながらも連関させることで、人と情報あるいは知との関係性が変化する様子をイラストで表現しました。

DAY 3  
Group 2 コンセプト



## 「#人生充実 #情報多様化 #「本」以外の提供 #本でつながる」

このグループでは、「ライフイベント」や「体験重視」など普段の生活に寄り添ったサービスについて言及すると同時に、テクノロジーの進歩がもたらす情報環境の変化について議論が交わされ、結果としてインスタグラム調のアウトプット(=画像とハッシュタグ)になりました。



丸善雄松堂は、長年、日本の教育・科学・文化に携わってた知見に基づき、社会にひろがる多様な学びの場において、人びとが知と出会い、学びを探究する「知と学び」を切り口としたコミュニティづくりをご支援します。まずはお気軽にご相談くださいませ。

